

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

特発性間質性肺炎診断と治療の手引き 改訂第 3 版

日本呼吸器学会 びまん性肺疾患診断・治療ガイドライン作成委員会（委員長：杉山幸比古）
南江堂、2016 年 12 月発行

■1 漢方薬

疾患：

薬剤性肺炎（副作用）

副作用に関する記載ないしその要約：

『原因薬剤として比較的頻度の高いものとしては、抗悪性腫瘍薬、生物学的製剤、分子標的治療薬、抗菌薬、漢方薬などがあげられる。』